

令和3年4月9日

福島成蹊高等学校通信

文責：本田 哲朗



実りの多い令和3年度の学校生活を送る事を願い

桜の花に祝福されて、新たに福島成蹊中学校に23名が、高校生は365名が入学しました。新入生諸君入学おめでとう。中高生が集う学び舎を生かし『校訓』の体现者たる“魅力溢れる、問題解決能力を備えたヒト”となるべく、共に励んで参りましょう。その為にも、先輩は後輩に対し思いやりの心を、後輩は先輩への尊敬の念を持って下さい。

さて、本年は開学から108年目を、一貫教育も13年目を迎えました。本学が一世紀を超え発展出来た要因は『桃李の精神』を堅持しながらも、常に時代に適った努力を続けて来たからに他なりません。これを表す格言“不易流行(ふえきりゅうこう)”は、物事にはその本質として変えてはならないものがある一方、時代と共に変化しなければならない理(ことわり)のある事を教えてくれます。また、この事は国の趨勢や学校の在り方に止まらず、人の成長にも通じる事です。端的に言えば、成長とは“before&after”の変遷の差で、以前と比較し実際に何が出来る様になったかです。例えばスポーツの技術や芸術分野の表現力もそうですし、勉強では学力もこれに当たります。結局の所、これは自分の成長への意志であり、それがヒトを決定付けている様に私には思えるのです。

ここで歴史の一コマを紹介します。大航海時代の事です。この事で世界各地の様々な人々の生活の実態が解って来るのですが、合わせて白色人種、黄色…云々のヒトの分類も出来あがりました。しかし、この人種の括りは生物学的種概念では、全くの誤りです。生物学では“ホモサピエンス”に括られ、同種なのです。しかし、生活様式(文化)の違いがこれに被り、残念ながら肌色でヒトの優劣を決めてしまったのです。これに強く疑問を持った一人が、“チャールズ・ダーウィン”です。後にビーグル号で、世界各地を航海し、観察の事実から様々な生物の形態を調べ、やがて【進化論】に辿り着くのですが、事の発端は、肌色の違いに因る人の優劣問題に対する疑問だったのです。私の経験など、とてもダーウィンに比するものではありませんが、一つ言えるとするれば、諸君が思っているほど人の能力の差はないと言う事です。勿論、優劣など絶対に在りません。しかし、もし、実際に生じる差の要因はと聴かれたら、躊躇なく目的に対する想いの強さ、成長への意欲の違いと答えるでしょう。これを、一人の詩人が記しているので紹介します。

『 天分、これを持たない者が居ようか。

才能、単なる子供の玩具。

努力こそが人を“ひと”とし、

汗のみが天才を創る。

』一ドイツの詩人・テオドル・フォンタンー

さあ、有意義な高校生活への船出です。共に邁進して行きましょう。